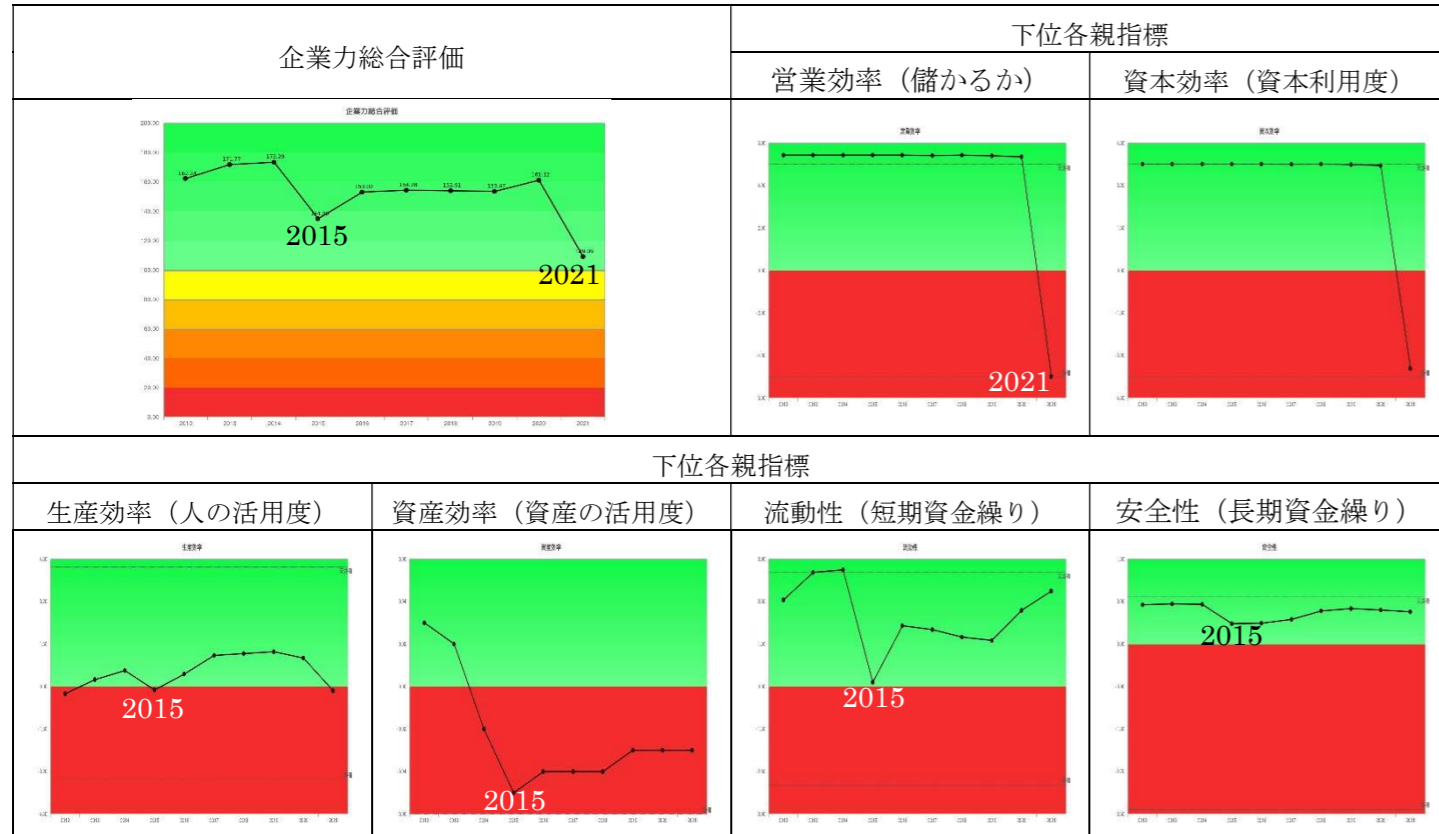
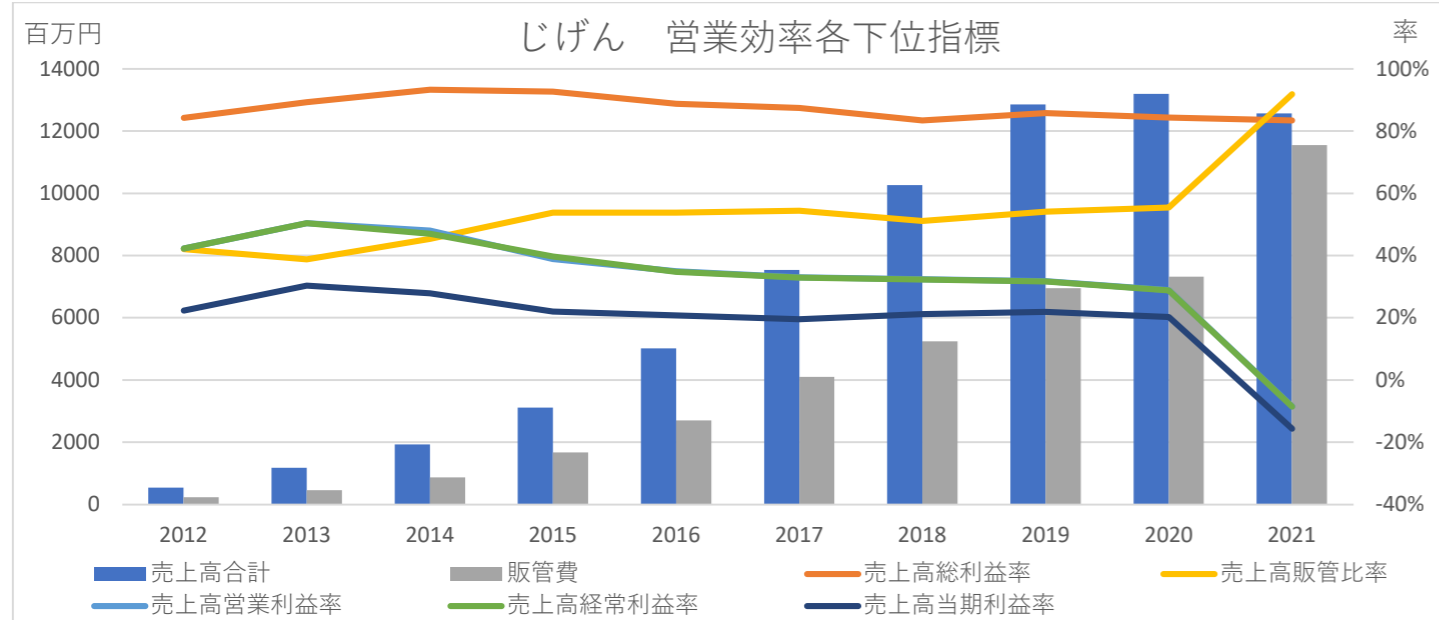


株式会社じげんは、子会社 15 社、関連会社 1 社と共にメディアプラットフォーム事業を営んでいます。多くの子会社は M&A で取得しています。株式会社じげんの分析は M&A の巧拙の分析と言えるかもしれません。

2012～2021 年 3 月期までの 10 年間の連結財務諸表を分析しました。



企業力総合評価は数年に 1 度の急落をし、戻り切らないまま悪化をしています。2021 年の悪化はかなり厳しく正常な経営領域のボーダーラインである 100 ポイントに近づいてしまいました。この悪化は営業効率、資本効率、生産効率の影響が大きいことがわかります。資産効率は、急激な悪化と赤信号領域へ固定化しています。流動性、安全性の財務体質の不安定さも気になります。



営業効率各下位指標グラフから、営業効率親指標の 2021 年の悪化の予兆は 2015 年でしょう。2015 年から売上高総利益率の悪化と売上高販管比率の高止まり、結果として売上高営業利益率の悪化トレンドに転じ、2021 年は売上高営業利益率▲8.45%です。2015 年は転換点です。

2015 年、株式会社じげんに何が起こったのでしょうか。定量的には、生産効率の悪化、資産効率の悪化（過去 10 年間でもっとも悪い）、流動性悪化（赤青ゼロ判別地点）、安全性の悪化と他のカテゴリーの財務指標群も軒並み悪化しています。

この年から M&A を活発に開始しました。この「M&A を開始した。」というたった一つで、定量情報ではほぼ全ての定量情報の説明がつかしました。

2018 年には、総資産の 41%が無形固定資産である「のれん」となりました。2016 年、日本基準のように毎期「のれん」の償却をしない IFRS への移行しており、高い買い物をした可能性があります。2021 年、こののれんの一部が減損損失として 3,991 百万円、「その他の費用」に計上され 1,069 百万円の営業損失となったのです。

日本基準では減損損失は特別損失で処理されるため、営業利益には影響しませんが IFRS 採用の為、営業損失になってしまいます。

実質価値より高く買った場合に生じる「のれん」は、その価値が認められなくなった時、どのように処理されるかわかっていたのでしょうか。分かっていたら、子会社業績改善を第一にし、減損の必要が無いようにしていた筈です。

更に、2021 年は 76 百万円と金額は軽微であるものの、「負ののれん発生益」が「その他の収益」に計上され、営業損失を減らしています。これは、割安に買った価値を一気に収益計上するもので、この買い物が本当にお得ならば問題ありませんが、悪い会社を買ったため安く買ったのであれば、その子会社が業績急改善しない限り、今後、営業効率を更に押し下げます。「のれん」が発生した子会社の業績改善できなかった事実が気になります。

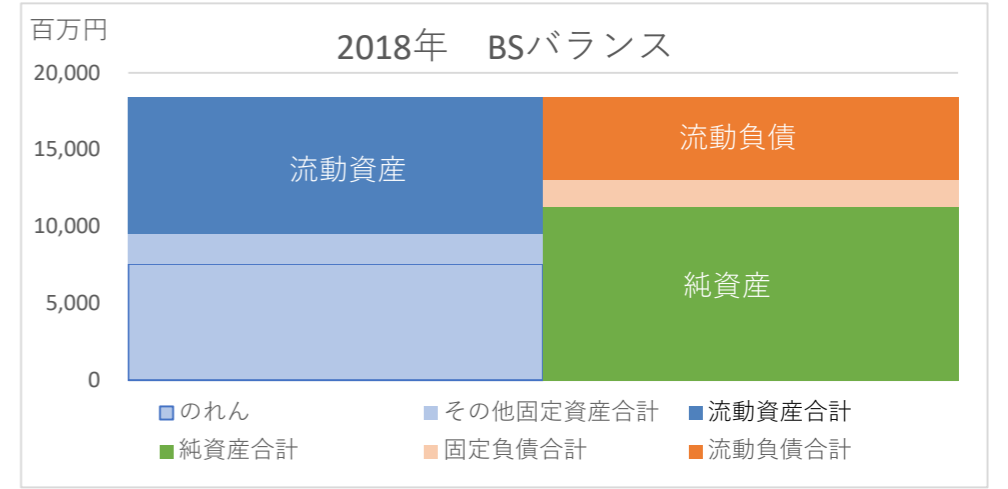
まとめ

株式会社じげんの失敗は、会計リテラシーをバックボーンにした財務諸表分析力の欠如が根本にあります。もっと緻密で周到な M&A を狙えないものでしょうか。

編集後記

会計リテラシーをバックボーンにした財務分析能力を身に付け、M&A を大成功に導くための「M&A 戦略立案のための財務分析講座」を開講します。<https://sp-21.com/column/ma-course/> 会計リテラシーゼロでも「わかった!」と言わせます。(^^♪ 文責 JY)

〒541-0052 大阪市中央区安土町 1-6-19 プロパレス安土町ビル 7 階 D 号 株式会社 SPLENDID21
tel 06-6264-4626 info@sp-21.com <https://sp-21.com>



	注記	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
売上収益	5,26,33	13,199	12,564
売上原価	29	△2,069	△2,081
売上総利益		11,130	10,484
販売費及び一般管理費	25,28,29,33	△7,393	△7,661
その他の収益	30	76	131
その他の費用	30	△7	△4,016
営業利益 (△は損失)	5	3,806	△1,062
金融収益	5,27	1	0
金融費用	5,19,27	△7	△7
税引前当期利益 (△は損失)	5	3,800	△1,069